

## 介護プロフェッショナル

### 優っくり村石神井台沼辺でのキャリア段位制度の取り組みと成果

優っくり村石神井台沼辺ではキャリア段位制度に早くから取り組み、介護技術の向上に努めました。平成26年度より導入してきました。

キャリア段位制度では『実際の現場で何ができるか』に重きを置き、実践的な技術を評価するため、ご利用者へ実際にケアを行う場面を見ます。

取り組み後の事業所では、食事介助中の姿勢や飲み込みの配慮、ご利用者の肌が露出するような場面での羞恥心への配慮、身体状況に合わせたご利用者ごとの移動・移乗介助の手順など、あらゆるケアの手順が統一され、定着しました。

さらにキャリア段位制度の良い点は、周りの職員にも良い刺激を与えることです。評価を受けた職員を中心に、現場の職員同様に極めて技術の共有が図られ、事業所全体でスキルアップしていくところです。

5月には事業所のキャリア段位制度への取り組みが評価されました。新聞社から取材を受け、記者の方から「素晴らしい施設ですね」とお褒めの言葉を頂きました。これもキャリア段位制度に真



**地域貢献活動→コミュニティカフェ特集**

私たちが地域貢献活動として取り組んでいるコミュニティカフェ特集です。年齢を問わずだれでも参加できる多種多様な食事の提供、認知症カフェ等を開催しています。これらによって、地域の活性化につながっています。今回は、港区高輪にある「高輪コミュニティカフェFor You」について詳しく紹介します。

**高輪コミュニティカフェFor You**

高輪コミュニティカフェFor Youは、当法人が港区から運営を任せられている港区立高輪いきいきプラザ（区内に住む60歳以上が利用）に高輪保育園、高輪児童館が併設した複合施設で運営しています。カフェはいきいきプラザのご利用者や保育園・児童館を利用する地域のママさん、近隣のサラリーマン・OLさんなど一日50名以上の方々に来店。多世代交流を目的に様々なイベントを開催しています。

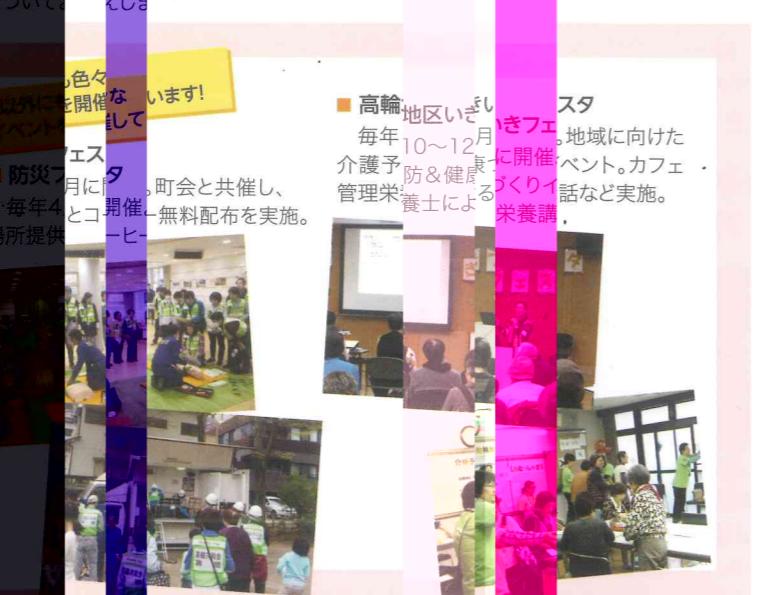
**法人事業情報**

**優っくり村新宿西落合 7月1日オープン!**

このたび、新宿区西落合にグループホームと小規模多機能型ショートステイの事業が併設されています。「優っくり村新宿西落合」が7月1日オープンとなりました。在宅からショートステイの3つの老介護プランを幅広くサポートいたします。また、建物内に多目的室があり、ボランティアの方や地域の方との交流ができるよう、無料で開放します。

## 地域貢献活動→コミュニティカフェ特集

第一回目～



ノオトニ新聞 2016 July Vol.2 2016年7月29日 発行

TEL: 03-5712-3770 FAX: 03-5712-3771 http://www.tonyou.or.jp/



## INTERVIEW

## ライバルはNPO

奉公会は特養ホームにおけるおむつ外しの取組などケアのレベルにも定評がある社会福祉法人ですが、これが改正により、これらの本業に加え、地域における公益的取組の実施も求められるようになりました。社会福祉法人は、社会福祉事業及び公益事業を行って、日常生活又は社会生活上の支援を必要とする者に対する料金又は低額な料金で、福祉サービスを積極的に提供するよう努めなければならない」とあります。公益性のある法人として税制優遇もある以上、当然のことといふわけでしょう。しかし、最近話題の子ども食堂や学習支援などのような生活困窮者への支援の多くはNPOが始まっています。社会福祉法人は、社会福祉ニーズに応えるべきだったのに…。「地域における公益的取組」とは具体的にどのようなものか。社会福祉法人の経営者は、体は行政に対し、その具体例を示してくれると主張しています。具現化されると多くの社会福祉法人は

それに左右され、自分で考えようしなくなるからというのです。至極もったいな主張です。社会福祉法人は地域の福祉ニーズを見つけ出すところから始めなければなりません。まさにライバルはNPOなのです。私がかかわってきた大阪府社協の生活困窮者レスキュー事業は、この「地域における公益的取組」のスタンダードと言われています。奉公会には東京地区で先頭に立ってこの事業に取り組むほか、多様な事業展開を行っているメリットを活かして、NPOもまだ手掛けっていない“全国初の取組”にも挑戦していただきたいものです。厳しい経営環境が続くなか、同業の社会福祉法人はもちろん、隣接分野の事業を行っている他の法人もライバルなのですから、社会福祉法人も大変です。奉公会もたくさんの方に負けぬよう、本業でも公益的取組でも、その実力を大いに発揮してください。



元厚生労働省老健局長、元大阪大学大学院人間科学研究科教授、社会福祉法人奉公会 評議員  
堤修三

## 取り組み

### 医療度の高い方の在宅生活を支えたい～優っくりデイ喜多見の真実～

創刊号では医療ケアの遠藤所長の想いと受け入れ実績が増えたことを紹介しました。今回は医療ケアを受け入れ実績が増えた理由をお伝えします。なぜ実績が増えたのか。それは医療依存度の高いご利用者を受け入れ、住み慣れた家で在宅生活を続けて欲しいという想いがあるから。のために、例えばデイ喜多見には痰吸引のできる介護職が4名います。一般的にデイサービスでは痰吸引は看護師が行うもの。看護師は介護職員へ積極的に研修・指導します。また、看護師も積極的に身体介護を行っていません。こういった看護師と介護職との業務の垣根なく、ご利用者へサービスを提供しているのが理由です。



**業前に勉強会を開催**

デイ喜多見では、看護職の多くが人工肛門（人工肛門）や「胃ろう」、「意識消失」などの医療ケアの勉強会を始業前の間に開催し、介護職員の医療ケアスキルを向上させています。

【優っくりデイ喜多見の実績】  
開所当初（平成25年）  
痰吸引できる介護職員 ▶ 0名

平成27年12月時点 受け入れ実績	医療ニーズ研修*
痰吸引できる介護職員 4名	年間15回以上参加

\*医療ニーズ研修：介護現場で必要な医療基礎知識を学ぶ研修

【優っくりデイ喜多見の好循環組織】  
看護師と介護職との垣根がない  
他のデイにはない独自サービスを提供！

医療ケア受け入れアップ  
介護職のスキルアップ